

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4272000268
法人名	有限会社栄寿会
事業所名	有限会社栄寿会 グループホームふるさと
所在地	長崎県対馬市上対馬町泉1635番地 (電話) 0920-86-3002
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年 2月 9日

【情報提供票より】 (平成20年 11月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (11月 18日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	離島医療圏組合 上対馬病院、久富歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

対馬の北部に位置したホームは山と海どちらにも面し穏やかな所に位置している。ホームは開設からこれまでの代表の実績、職員の努力も踏まえ地域の一員としてとけ込んでいる。自治会との連携もとれ、地域の友人宅という雰囲気での交流もある。「目くばり、気くばり、心くばり」の運営理念は職員に浸透し、各々の介護姿勢に生かしており、チームとしても話し合っている。代表は職員を育てることを積極的に行い職員も意欲的であり、利用者の安心感につながっている。利用者はホームの中での自らの役割をもち、楽しみながら穏やかに日々過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価は職員へ回覧し改善に向け取り組んでおり、「家族への便り」「研修・資格支援」など改善されているが他項目は継続中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義は十分理解しており、今回は管理者が作成し職員へ回覧する中で追記し作成され介護姿勢の振り返りになっている。次回は各職員が作成し各々の振り返りを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催されている。メンバーは施設長・管理者・市指導監査職員・地域包括支援センター・家族・老人クラブ代表・利用者・計画作成担当である。議題はインフルエンザや消防などで雑談を交えながら地域の問題点なども話し合われている。議事録・要綱もあり書類はまとめられている。問題点があれば職員と対策を話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が面会時に話しやすい雰囲気作りはしている。しかし、実際に苦情は出ていない。要望が有る場合はミーティングで検討し運営に反映している。苦情窓口は、内部窓口・外部窓口とも重要事項説明書に記載されているが、家族の意見の抽出する取り組みは十分とは言えない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは自治会に入会している。施設長が自治区長でもあり、地域の行事などに職員も参加している。地域老人クラブの訪問も多く、草取りや花壇の整備など行ってもらっている。また地域のボランティアのビデオサークルの上映会や大正琴の演奏会など行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「目配り・気配り・心配り」という開設当初からの理念のもとに、感謝の気持ちを持ち、地域の暮らしの延長線として支援している。中でも「心配り」は利用者が以前と同じ生活ができるように、地域との連携を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を復唱している。毎日利用者の介護目標と理念を関連づけ申し送りして話し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは自治会に入会している。施設長が自治会長でもあり、地域の行事などに職員も参加している。地域老人クラブの訪問も多く、草取りや花壇の整備など行ってもらっている。また地域のボランティアのビデオサークルの上映会や大正琴の演奏会など行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価は職員へ回覧し改善に向け取り組んでおり、「家族への便り」「研修・資格支援」など改善されているが他項目は継続中である。評価の意義については職員へ話を行っている。今回は自己評価は管理者が作成し職員へ回覧している。	○	職員の介護姿勢の振り返りの場として、ミーティングなどを利用した自己評価への参加を期待したい。

有限会社栄寿会 グループホームふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。メンバーは施設長・管理者・市職員・地域包括支援センター・家族・老人クラブ代表・介護度が高くない利用者・計画作成担当である。議題はインフルエンザや消防などで雑談を交えながら地域の問題点なども話し合われている。議事録・要綱もあり書類はまとめられている。問題点があれば職員と対策を話し合っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは日頃から連絡を密に取っており、事業所の状況報告や相談、情報交換等行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、利用者の近況報告を行っている。また、毎月家族通信を送付し日々の暮らしぶりや健康状態を報告している。利用者の容態に変化があった場合は随時電話連絡している。金銭報告については、預かり金の報告を出納帳、領収証により6ヶ月位の頻度で報告しており少し期間が空いている。	○	家族への金銭報告は家族へ利用者の暮らしぶりが分かる手段でもあり、報告期間を短く行われることを希望する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時に話しやすい雰囲気作りはしている。しかし、実際に苦情は出ていない。要望が有る場合はミーティングで検討し運営に反映している。苦情窓口は、内部窓口・外部窓口とも重要事項説明書に記載されているが、家族の意見の抽出する取り組みは十分とは言えない。	○	家族の訪問も多いので、家族会などの意見を聞く場面作りや、アンケートを取る等工夫し家族の意見を取り入れ運営に反映する様積極的な取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表は職員の職場環境を重視し、慰労会やレクレーションなどストレスの軽減につとめ離職を最小限に抑えるようにしている。職員が代わる際も、利用者の状況を細かく分かるように引き継ぎ、利用者のダメージが少ないように配慮している。退職者は近隣の住民で有り、利用者との馴染みの関係は継続している。		

有限会社栄寿会 グループホームふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は、ヘルパー2級講習、調理師研修等受講し積極的な取り組みが見られる。職員は県主催の研修には順番に参加している。外部研修は、インフルエンザ感染対策、介護予防従事者研修を受講し、感染症対策に役立っている。研修内容は復命書を回覧し全体で共有している。資格取得についても、周知し取得に向けて促し、可能な限り支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流は、距離が離れていることもあり頻繁ではないが、相互訪問しており、情報交換も行われている。昨年も他のグループホームへ見学、研修に出かけている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用相談があった場合、本人と家族にホームの見学に来てもらい、入所までの経緯や要望、生活習慣等について話を聞き情報収集し記録している。入居後職員は利用者が安心して生活出来る様、家族と相談しながら少しずつ馴染めるよう言葉掛けや見守りの支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を見守りながら接する中、一人ひとりに合った対応を心がけ、思いが表出しやすい様心がけている。利用者の昔の暮らしの話を聞き学んだり、感謝の言葉をいただいて仕事の励みにしており、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に思いを寄せ、利用者の意見が出やすいように心がけている。生活歴や暮らしの様子・表情を見ながら思いや意向の把握に努めている。申し送りの中で気づいた点、疑問に思う点を上げ職員間で話し合い共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所後、1週間位で利用者や家族の意向を踏まえ、全職員で何が必要かを洗い出し介護計画をたてている。介護計画は、利用者や家族へ説明し同意を得て署名、捺印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、短期3ヶ月、長期6ヶ月で行っている。介護計画の見直しはスタッフ会議で話し合い全職員で取り組んでいる。利用者や家族の意向を訪問時に聞き取り、申し送りノートや業務日誌に記録している。医療機関のアドバイスも考慮し変化に応じた見直しを行っている。様態が急変した場合は、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の行きつけの美容院や自宅へ戻る際に送迎している。またホーム前の海岸を散歩したり、その日の利用者の要望に応じている。また、利用者が入院した時にはお見舞いに出向いたり、衣類の洗濯物を取り替えたりし柔軟に支援している。		

有限会社栄寿会 グループホームふるさと


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を中心としている。利用者の緊急時などは、家族への連絡を行い病院へ出向いてもらう。また通常の受診は家族へ毎月の報告がなされ双方が思う受診がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針と同意書が作成され入居時に説明されている。また、利用者の状態が変わった時には検討会をホーム・家族・医師とで行い、適切な今後の方針を話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の守秘義務の誓約書、家族とは個人情報に関する同意書が作成されている。職員は利用者への尊厳を重視し言葉掛けなど気をつけている。また家族などプライベートのことは自室で話してもらったり気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、起床時から利用者のペースを大切に支援しており、職員の都合を優先することはしない。毎朝利用者とは会話をする中で一日の楽しみごとを話している。利用者は家族へ手紙を書いたり、一人ゆっくり読書をしたり等支援をしている。		

有限会社栄寿会 グループホームふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所とリビングがオープンであり、利用者と対面しながら準備の段階から楽しめている。利用者はランチョンマットを準備したり食材の下準備を手伝ったりしている。食事は職員が見守り、会話を楽しみながら行っている。嗜好の把握や体調に合わせた食事を用意したり、食事前の嚥下体操を行うなど利用者に完食してもらえよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった入浴日はあるが、利用者の要望に対応している。また入浴前に体調確認を行っている。入浴拒否は利用者それぞれに応じた方法を職員が行った結果、現在は利用者は入浴日を楽しみにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は自らの役割を楽しんで行っている。例えば、野菜の皮むきや食器を下げたりの台所作業や台ふきを縫ってもらったりしている。また日中はカラオケやトランプや花札といったゲームをしたり、新聞や読書をしたり充実している。職員も生活歴や日々の会話の中からキーワードをくみ取り情報を共有している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や天気によってはホームの庭や前の道路を散歩している。また希望があれば買い物に出かけたり、四季折々のドライブを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは日中は鍵をかけていない。職員は利用者の見守りを大切にし、出られた場合もそっと後ろからついていっている。地域交番の巡回もあり万が一の体制も十分に整っている。		

有限会社栄寿会 グループホームふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署・分団を交えた消防訓練の他、毎月職員は利用者と共に夜間想定も含め避難訓練を行っている。訓練記録を作成し、いつでも見直せるようにしている。また、緊急連絡体制は職員も周知している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人介護記録に食事量・水分量が詳細に記録されている。入浴後など水分の補給も心がけている。管理者は栄養士の資格もあり、利用者の好き嫌いやも考慮しながら献立作成を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはゆったりとした家具の配置で、ソファでくつろいだりダイニングテーブルで作業したり自由に行える。室内の音、室温は職員が温度計を確認したり、利用者の様子をききながら管理している。また加湿器など健康管理にも気を遣っている。浴室・廊下は手すりを設置し安全面にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の部屋は換気・室温共に適切に管理されている。室内は利用者の活動しやすいよう配置されている。部屋は洋室・和室のタイプがあり利用者の希望や、身体レベルにあわせて選択できる。家具の持ち込みや家族の写真などの飾り付けは、利用者の好みで行われている。		

※  は、重点項目。